

「2023 年 3 月期第 2 四半期決算」説明会 質疑応答要旨

日 時：2022 年 11 月 1 日（火） 14 時 00 分～15 時 15 分
説 明 者：柘植代表取締役社長
関取締役 常務執行役員 CFO
江田専務執行役員 CTO

Q：第 2 四半期は営業利益減益だが、通期計画達成の確度は？

A：営業利益に関しては、期初計画に対してインライン。

下期のハードルは低くはないが、現時点では期初計画から大きく上下するとは見ていない。

Q：Q1 の一過性費用（50 周年一時金）を除いても、その他の収益及び費用が計画比で大きく伸びているが、その要因は？

A：稼働率の低下により製造原価振替が減少したことで販管費が増加した。その他は少額差異の積上げ。

Q：人件費などのコストの今期予想は？コストカット施策など実施の予定はあるか？

A：ビジネスは引き続き伸長していくと見ている。それを着実に実行するためには人材確保が必要。

人件費のカットは考えていない。

Q：情報通信事業グループの低採算案件は、円安の影響により低採算となったものか？

A：違う。契約時点より戦略的に低採算で獲得した案件。

案件のタイミングの問題で第 2 四半期は比較的採算の低い案件が複数売り上がった。

円安の影響については、顧客への転嫁を基本としており、現時点で大きな影響は無い。

Q：戦略的低採算案件はどのような案件？下期には影響ないか？

A：情報通信事業グループにおいて新規領域を獲得するための案件。現時点で下期以降の低採算案件は

見えているものはないが、新規領域獲得の必要があれば、発生することはあり得る。

Q：ベンダーインセンティブや戦略的低採算案件については、Q1 決算時点で見通せていたものか？

A：個別案件毎の売上計上タイミングの影響があるため、すべてを見通すことは難しい。

Q：Q1 より売総率低下傾向が続いているが、下期ではどう改善していくのか？

A：CTC テクノロジーにおける人員確保による原価増は、売上を伸ばし吸収していく。

Q：2020 年度下期から高水準を維持していた売上総利益率が低下し、営業利益の通期計画達成も難しいように見えるが、ボトムでの計画達成を目指すのか？

A：売上総利益、販管費、営業利益など段階損益での入り繰りがあり、ハードルは低くない。いずれにしても計画達成に向けて引き続き努力していく。

Q：2020 年度下期から売上総利益率が上がったのは情報通信事業グループの影響にも見えた。今回は情報通信事業グループの売上総利益率低下の影響により、全社の売上総利益率の水準が戻ったのか？

A：必ずしもそうではない。エンタープライズ事業グループでは DX やクラウドシフトの案件が増えており、難易度の高い仕事を請け負うことで、売上総利益率は順調に上がってきている。情報通信事業グループは全社へのインパクトが大きい目立ってしまうが、他の事業グループでは着実に改善傾向が見えている。

Q：円安が売総率にどう影響してくるのか？実績と見通しは？

A：為替の影響は従来通り顧客への転嫁、為替予約、外貨預金によりヘッジしている。上期への影響はあまりない。下期の方が影響が出る可能性はあるが、引き続き影響の抑制に努める。

Q：上期、半導体不足のインパクトは？

A：期初計画から売上 20 億が下期以降へスライドした。

Q：受注残高が過去最高に積みあがっている中、売上の予想に変更がないのは、半導体不足の影響によるものか？

A：ご認識の通り。当社が提供している製品の納期遅延に加え、顧客側で調達する製品にも遅延が発生し売上に影響している。現状、半導体不足による納期遅延に解消のめどは立っておらず、不透明な状況は当面続くとみている。

Q：情報通信事業グループの受注は、下げ止まったように見える。受注した 5G/SA の大型案件の売上予定は？今後 SA 案件が増え、横ばいからプラス成長に向かっていけるような環境になってきている？

A：当案件の売上は来期以降。環境は悪くない。一般企業が 5G を使うビジネスをするようになるには時間を要する。今期ではなく、タイミングの問題。5G の環境が整っていけばデータ通信量は増えていくため、増強の案件はでてくる。MEC も期待したい領域。

A：キャリアの SA 展開は進められている。5G 関連の構築案件は出てくると考えている。
そのための CTC テクノロジーの人員増でもある。

Q：キャリアの総投資額は減っていく方向にある中、CTC のビジネスは増えていくのか？

A：最近の 5G コアビジネスは NW 機器ではなく、サーバを使うケースもある。納期の心配がないメーカーを選定するなどして、順調に推移していくと思う。

Q：受注、上期好調だったが通期計画は据え置き。下期に何かしらのリスクを考えているのか？Q2 への前倒しがあったのか？

A：納期の問題はあるも、特殊要因があるわけではなく、単純に保守的に見ている。

以上